

■高群逸枝	詩人として登場、転変の後、俗事は夫に任せて自宅から一步も出ずに研究、女性史学を確立した。
たかむれいつえ	
日清戦争始・1894＝	小学校校長の長女として、父の任地熊本県豊川村(松橋町)で生まれる。
	豊かな自然の中、互いに極めて仲の良い理想主義の父と愛情豊かな母のもとに育つ。
八幡製鉄始・1897＝	3歳：弟が誕生、
子規句歌革新1898＝	4歳：父の久具校転任に伴い、一家で移住、初めて地域との別離を体験する。
	父が少年教育に多面的に取り組むようになるなか、
ピノ/国産化・1900＝	6歳：次弟が誕生。久具尋常小学校に入学、以後、首席で通す。祖母の死去で、初めて人の生死を考える。
教科書疑獄・1902＝	8歳：妹が誕生。
日比谷公園・1903＝	9歳：父の守富校転任に伴い、一家で移住するとともに転校、
日露戦争始・1904＝	10歳：<日露戦争始>で父の周辺が騒然とするなか、高等小学校に入学後も、弟妹とともに首席が続く。
日露戦争終・1905＝	11歳：
韓国反日暴動1907＝	13歳：守富校に購入された「大日本歴史」を読んで妻問婚を知り驚き、以後、質問癖が強くなる。
アヲヲ創刊・1908＝	14歳：卒業の際、女子異例の答辞を読む。学齢待ちのため、熊本市の叔父宅に寄寓して予備校に学んだ後、
伊藤博文暗殺1909＝	15歳：県立熊本師範学校に入学するが、堅苦しい校風のストレスからか、ほどなく重い脚気となり、
韓国併合・・・	1910＝16歳：ついに中退、療養と自習につとめる。
	この間、父の理想主義的教育に対して国家教育からの圧力が高まり、
明治天皇没・1912＝	18歳：父が佐俣校へ転任させられ、一家で移住。私立熊本女学校4年に編入、弟とともに寄宿して通学、
大正政変・・・	1913＝19歳：自由な雰囲気になじむも、教師から注意されて精神的衝撃を受け、家計援助を理由に自ら退学、
第一次大戦始	1914＝20歳：紡績工場に通うも女工との世界観の違いから退き、代用教員となって、父の佐俣校に引き取られる。
21ヶ条要求・1915＝	21歳：父が弘川校転任となり、一家で移住。父の勧めで書いた感想文が教育雑誌に載り、
ロシア革命・1917＝	23歳：それを見た県内の橋本憲三から突然回覧雑誌への参加を勧める葉書を受け取り、文通後、八代で出会うも、
本格政党内閣1918＝	24歳：恋愛に動揺、{九州日日新聞}に入社して熊本生活に入るが、都会生活になじめず、無銭で四国巡礼旅行に出、途中出会った老人がマネージャー役のように廻りながら、「娘巡礼記」を連載を終えて、弘川に帰る。
ベルサイユ条約・1919＝	25歳：憲三と訪問結婚をするが、夫のエゴイスティックな生き方との軋轢に耐えられず、書置きして帰郷後、
大暴落・・・	1920＝26歳：母が死去。*感情革命が起き、爆発的に歌作、{大阪朝日新聞}に寄稿して柳沢健から激賞される。やがて歌では間に合わず「放浪者の詩」を書き、フランス大使館勤務となった柳沢の紹介を得て上京、思いがけず「放浪者の詩出版の斡旋を受け、世田谷の大百姓軽部家を紹介されて寄寓。長編詩「日月の上に」を書く。
原敬首相暗殺1921＝	27歳：打撃を受けた父も辞職。「民衆哲学」という論文を生田長江に送って認められ、推薦で「日月の上に」も刊行、「放浪者の詩」刊行と合わせ、詩壇からは悪評されるも、一般に歓迎された。憲三が来訪、熊本に戻る。
水平社結成・1922＝	28歳：夫とともに再上京。長男死産に衝撃。長編時事詩「東京は熱病にかかっている」を書く。社会科学の学習を始めるとともに、文筆活動。最初の歌をまとめて歌集「妾薄命」を刊行。詩壇の顔色を覗う出版界からも敬遠されるが、生田長江らの励ましで播磨がず詩作を続け、詩集「美想曲」「胸を痛めて」を刊行する一方、「私の生活と芸術」から評論集にも広がるも、売文的生活となる。
関東大震災・1923＝	29歳：夫が紹介されて{平凡社}に入社後、<関東大震災>となり、「震災日記」を書く。軽部家を出て新居に移る。
治安維持法・1925＝	31歳：下中弥三郎の序文付で{平凡社}から「東京は熱病にかかっている」を刊行。夫の生活中心の夫婦のあり方に絶望し家出するも、夫が半狂乱で探していることを新聞で知って戻ると、ついに夫に妻の尊厳を認めさせ、下落合の家で再出発、以後、訪問客を禁じる。
円本時代始・1926＝	32歳：一気に書き上げた論文「恋愛創生」を刊行。
金融恐慌・・・	1927＝33歳：父が死去。夫が企画し株主の抵抗の中編集した「現代大衆文学全集」が大成功となるも、夫が自ら辞任。
共産党事件・1928＝	34歳：なお、同志的夫婦への希望がかなわぬまま、売文執筆で健康を害する。
海軍軍縮条約1930＝	36歳：短編小説集「黒い女」。平塚らいてうと無産婦人芸術連盟を結成し、機関誌{婦人戦線}を主宰して、アナキズムの立場で評論、婦人問題を執筆。
満州事変・・・	1931＝37歳：下中弥三郎の懇請で、夫が{平凡社}に再勤務。*世田谷に研究所兼住居を建て、過去を陳謝した夫が、俗事を引き受け、研究に専念、面会謝絶で「母系制の研究」に着手。「女教員解放論」「婦人生活戦線」刊行。
国際連盟脱退1933＝	39歳：病気に倒れたが夫の看護で危機を脱する。
芥川直木賞始1935＝	41歳：{平凡社}が百科事典刊行事業の終了とともに破産措置をとり、夫が退社。
二二六事件・1936＝	42歳：「大日本女性人名辞書」を刊行。平塚らいてうの発議で高群逸枝著作後援会が発足。
日中戦争始・1937＝	43歳：「母系制の研究」の稿を起こし、日本古代に母系制が存在したことを立証、
健保+総動員1938＝	44歳：「母系制の研究」刊行。「招婿婚の研究」に着手。かつての「娘巡礼記」を全く新たに「お遍路」刊行。
第二次大戦始1939＝	45歳：
大政翼賛会・1940＝	46歳：「招婿婚の研究」の核心を掴み、それまでの調査カードを全部破棄して、再スタート。
日米開戦・・・	1941＝47歳：
・・・	1942＝48歳：随筆集「私の報告」刊行。大日本婦人会機関誌「日本婦人」への寄稿を引き受け、
創価学会検挙1943＝	49歳：「留守日記」。
敗戦・・・	1945＝51歳：敗戦直前まで続け、経済的に助かる。
新憲法公布・1946＝	52歳：「書斎日記」。
新憲法施行・1947＝	53歳：自宅を女性史学研究所と称する。「日本女性社会史」「女性史学に立つ」刊行。
極東裁判決・1948＝	54歳：「恋愛論」刊行。
朝鮮戦争始・1950＝	56歳：「招婿婚の研究」の稿を起こす。愛鶏との共同生活が始まる。
独立回復・・・	1951＝57歳：熊本県教育委員会から近代文化功労者に推される。
TV放送始・・・	1953＝59歳：「招婿婚の研究」を刊行、従来の婚姻史をくつがえすなど、女性史研究に一里塚を築いた。
自衛隊発足・1954＝	60歳：「女性の歴史」刊行開始、
なべ底不況・1957＝	63歳：
インスタントメン・1958＝	64歳：随筆集「愛と孤独と」刊行。*「女性の歴史」全4巻が完結し、ライフワーク「大日本女性史」全6巻を成就。
美智子妃・1959＝	65歳：「今昔の歌」刊行。
安保闘争・・・	1960＝66歳：
全国総合計画1962＝	68歳：松橋町名誉町民、高群記念文庫設置。
TV宇宙中継始1963＝	69歳：「日本婚姻史」刊行。愛鶏が死去。
東京リビッド	1964＝70歳：自伝「火の国の女の日記」執筆中、32年間一度も外出することなく、癌のため没した。

シリーズ「人間の記録」、刀水書房「20世紀の歴史家たち1」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、「女たちの20世紀・100人」、「日本の女性」、